

市の重点目標	学校の重点目標	保護者への問い	職員への問い	生徒への問い	保護者	職員	生徒			
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・個の特性に応じ、また選択できる授業へと工夫改善することで、生徒一人一人に「学び」を届け、願いの実現を支援する。 ・放課後活動の内容を充実させることで個性の伸長を図り、新しい自分を見つかけられるように支援する。	①学校は、生徒のありのままの姿を認め、安心して居場所づくりや子どもの良さを引き出すことに努めている。	生徒の状況を合理的に分析し、その段階に合わせた無理のない支援が行われている。 全員が安心して学校生活をおくることができるような校風づくりに努め、実現できている。	先生たちは、生徒のありのままの姿を認め、生徒の良さを引き出そうとしている。 学校は、生徒が安心して居場所づくりを大切にしている。	3.75	3.62	3.74			
		②学校は、一人ひとりが状況に合わせて学び方を選択できる授業を行うなど支援を工夫している。	生徒の意思を尊重しながら、個別最適な学びの支援が行われている。	先生たちは、生徒一人ひとりが状況に合わせて「学び方(授業の参加のしかたなど)」を選べるように工夫している。				3.65	3.29	3.86
		③学校は、個性の伸長を図れるよう放課後活動(マイタイム・マイスタディ)を行うなどの支援を工夫している。	生徒の興味関心を把握し、生徒の個性伸長につながる学びを展開することができている。	学校は、生徒の良さを伸ばしたり、興味関心を高めたりするような「放課後活動(マイタイム・マイスタディ)」を工夫している。	3.74	3.24	3.83			
		④学校は、修学旅行や校外学習を行うなど、仲間づくりや人との接し方を学ぶ機会を生み出すことに努めている。		学校は、修学旅行や校外学習を通して、仲間づくりや人との接し方を学ぶ機会を生み出そうとしている。				3.81		3.74
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地元企業や地域関係者など多様な立場の人と関わる経験を重ねることで、自分の良さや得意に気づかせ、生徒の自己有用感を高める。 ・「ぎふMIRA's」での学びを通して、自分の生き方やよりよい社会の在り方について考えようとする態度を育てる。	⑤学校は、地域の自治会や地域企業の教育力を積極的に活用している。	多様な学びを生徒に提供するために、地域や企業の教育力を積極的に活用している。	学校は、学校の先生だけではなく、講師の先生(地域の方や企業の方)から学べる場を取り入れようとしている。	3.69	3.57	3.66			
		⑥学校は、講師を招聘したり体験活動を行ったりするなど、社会を知り、つながる良さを実感できる活動を仕組んでいる。	行事等の地域との触れ合いの中で、生徒がより良く社会参画をしていきたいという思いを持つことができている。 社会とつながる良さを実感できるような地域人材を積極的に活用している。	学校は、社会を知ったり、社会とつながったりすることの良さを実感できるような「体験活動」を取り入れようとしている。				3.72	3.19	3.54
		⑦学校は、生徒との懇談を定期的に行い、一人一人の状況や思い、願いに沿った支援に努めている。	生徒理解を深めるために、専門機関の研修を含んだ職員研修を積極的に行っている。	先生たちは、生徒と話を時間を大切にし、一人ひとりの思いや願い、状況などを理解しようとしている。						
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・対話的な学びを大切に研修を行い、職員相互の理解を深め、同僚性を育む。全職員が信頼をもとに連携し、生徒の支援にあたる。 ・全職員が素早く効率的に生徒の状況を把握できるようICTを有効活用し、個別最適な支援へとつなげる。	⑧学校は、カウンセラーやエルギふ、医療機関等と連携し、より良い子どもの支援に努めている。	保護者の同意を得た上で、関係諸機関を積極的に活用し、多様な支援の充実を図っている。	スクールカウンセラーやほほえみ相談員、ハートフルサポーターの先生は、生徒の様子を気にかけてくれたり、必要に応じて話を聞いたりしてくれる。	3.46	3	3.57			
		⑨学校は、組織的にいじめの早期発見と早期解決に努めている。	客観的な情報を積極的に活用し、いじめの早期発見に努めている。	学校は、いじめに対して敏感になり、いじめが疑われるときには素早く対応してくれる。				3.53	3.76	3.83
		⑩学校は、命を守る訓練等を行い、非常時に備えて子どもの安全を確保する取組を行っている。	命を守る訓練や講演会等を通して、自分の命を守る意識を育てている。 職員が、AEDの使用法や救命処置等についての知識と技能を身に付けている。	学校は、命を守る訓練などを行い、もしものときに備えて生徒の安全を守ろうとしている。						
災害、事故、感染症、生徒指導専案等に対する安全性の確保	・命を守る訓練では、想定される状況を設定して行うことで、生徒が自分で判断し、危機に対応しようとする力を育てる。 ・教育相談体制の充実、いじめの早期発見早期対応に努めることで、自他の存在を大切に、生命の尊厳への理解を深める。	⑪学校は、公共交通機関や自転車を利用する際のマナーや安全指導などを行い、日常的に自分の命を守る意識を育てている。	非常時に必要となる支援について、組織的に確認している。 生徒の通学状況や連絡先を組織的に把握できている。	学校は、生徒の通学時の安全や自転車の乗り方など、自分で命を守ることの大切さを指導している。	3.68	3.14	3.6			
		⑫学校は、多様な学び(不登校特例校)としての機能を果たすための施設や備品の充実がなされている。	生徒が多様な学びを選択できるよう、様々な学びのスタイルを提案できている。 IPADのより良い活用方法を常に模索し、生徒の支援に生かしている。	学校は、生徒一人ひとりが安全に過ごせるように、学校環境(設備や備品など)を整えようとしている。				3.78	3.38	3.8
		⑬学校は、見通しをもち不要な集金が発生しないような配慮をしている。	諸会計が適切に処理されているか、学校職員以外のチェックが入っている。 公教育の視点から、不要な納入金が発生しないような配慮がなされている。							
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・教育DXを推進することで、個別最適な学びや協働的な学びを進めるとともに、職員同士の情報共有や書類作成などにも生かし、業務の効率化を図る。 ・教材等を厳選することで不要な納入金をなくするとともに、適切な会計処理がなされるよう複数の目で確認をする。	⑭学校は、定期テストや教育通信等、学校生活や学習活動の評価は適切に行っている。		先生たちは、生徒一人ひとりの生活のようすや学習のがんばりを認めてくれる。	3.71		3.83			
		⑮学校は、個別懇談などを通して、お子様の様子を家庭に適切に伝えている。	生徒や保護者と対話する時間を大切にすることで、より良い関係の中で連携した教育が展開できている。					3.84	3.71	
		⑯学校は、ホームページや草潤カフェ等を通して学校全体の様子や情報を適切に伝えている。								
		⑰学校は、「進路説明会」「スポーツフェスティバル」「みんなでラウンドテーブル」等の行事を公開するなど、開かれた学校づくりに努めている。						3.72		
			会議や校務分掌が整理され、働き方改革が進んでいる。							
その他										